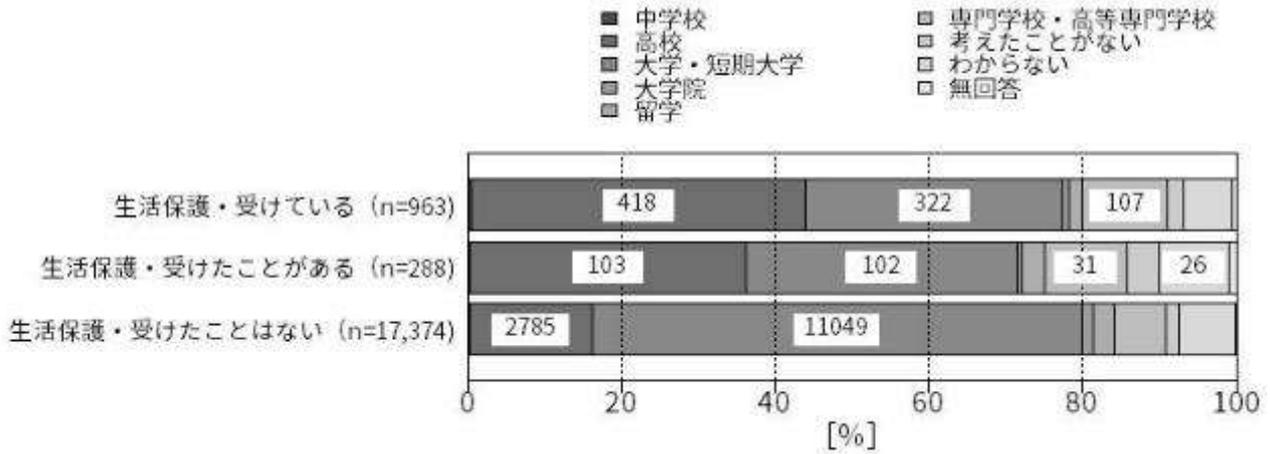


生活保護の受給別に見た、子どもに希望する進学先

(保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 15)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

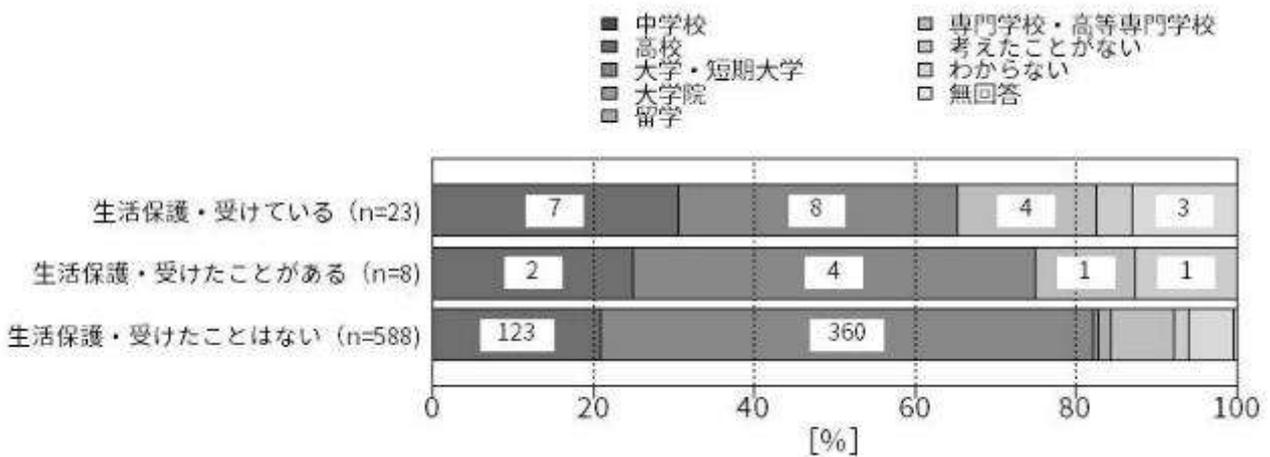


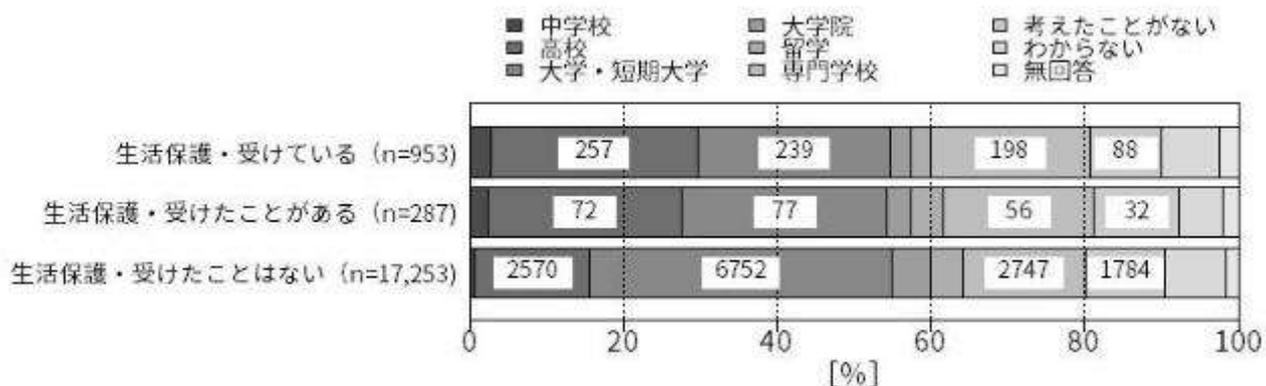
図 149. 生活保護の受給別に見た、子どもに希望する進学先

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、子どもに希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した保護者が 34.8%、生活保護を受けたことがない世帯では 61.2%であった。

生活保護の受給別に見た、希望する進学先（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

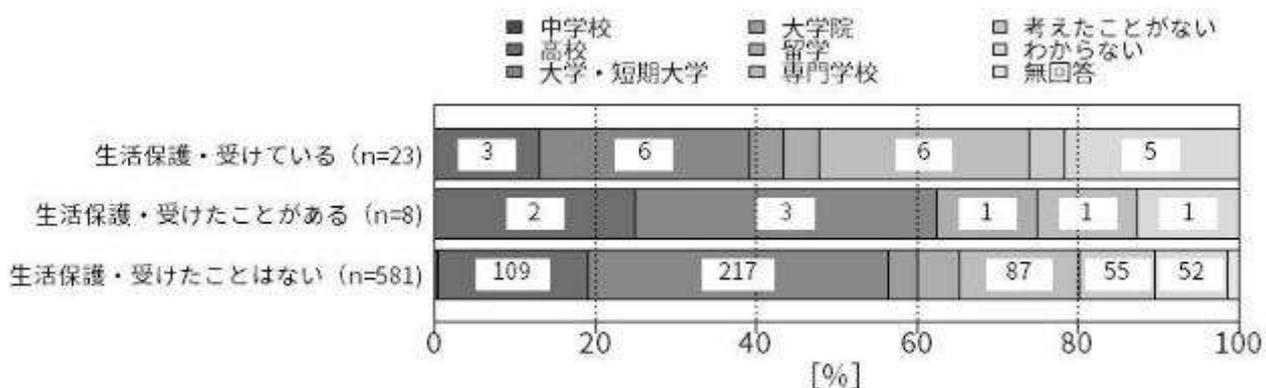


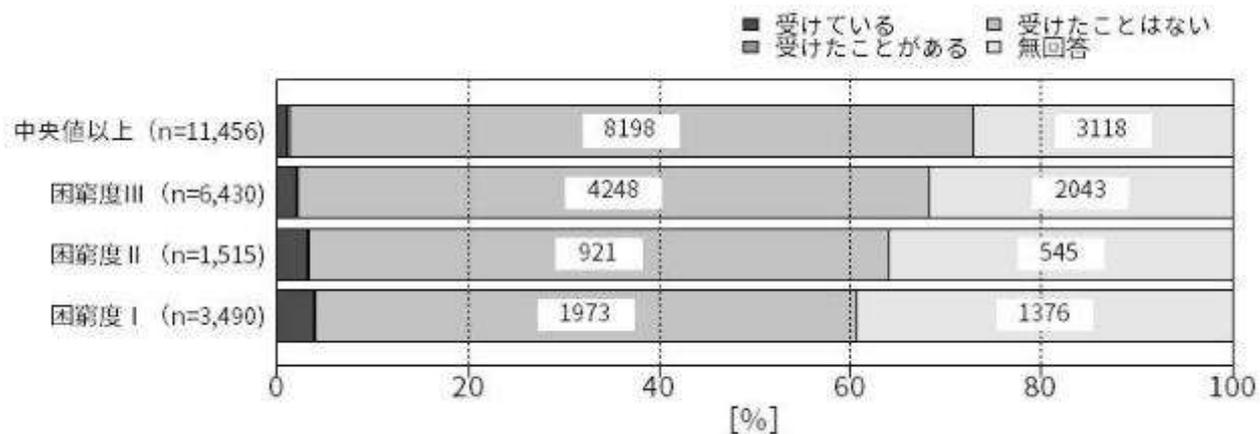
図 150. 生活保護の受給別に見た、希望する進学先

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した子どもが 26.1%、生活保護を受けたことがない世帯では 37.3%であった。

困窮度別に見た、公的年金（遺族年金、障がい年金）（保護者票 問 30(3)⑦）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

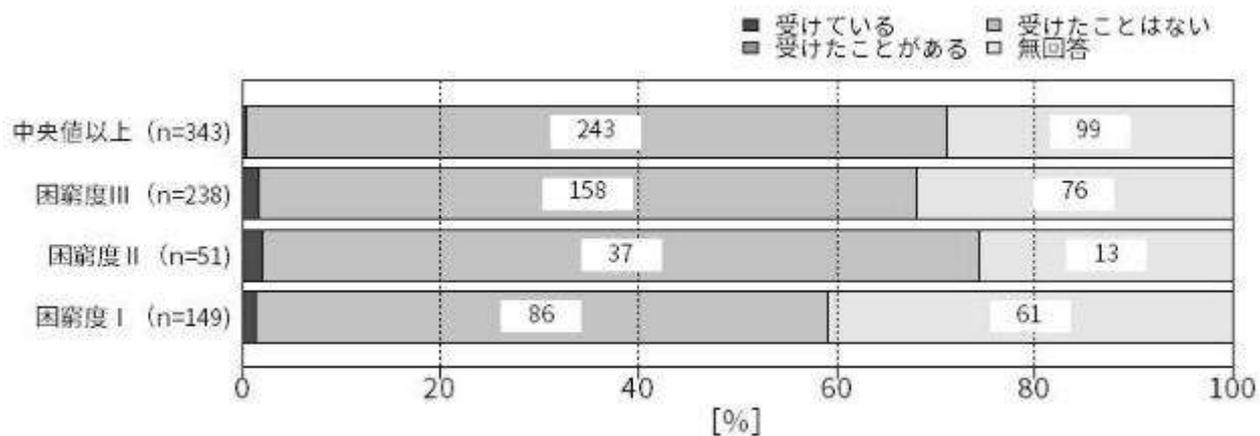
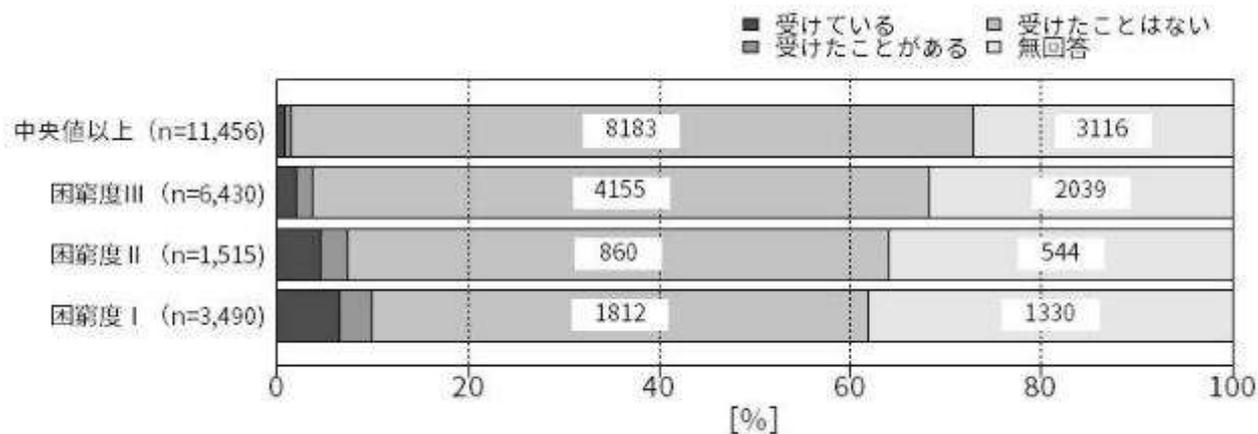


図 151. 困窮度別に見た、公的年金（遺族年金、障がい年金）

困窮度別に遺族年金や障がい年金といった公的年金の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は1.3%であった。また、困窮度Ⅰ群においては無回答の割合も高い。

困窮度別に見た、養育費（保護者票 問 30(3)⑨）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

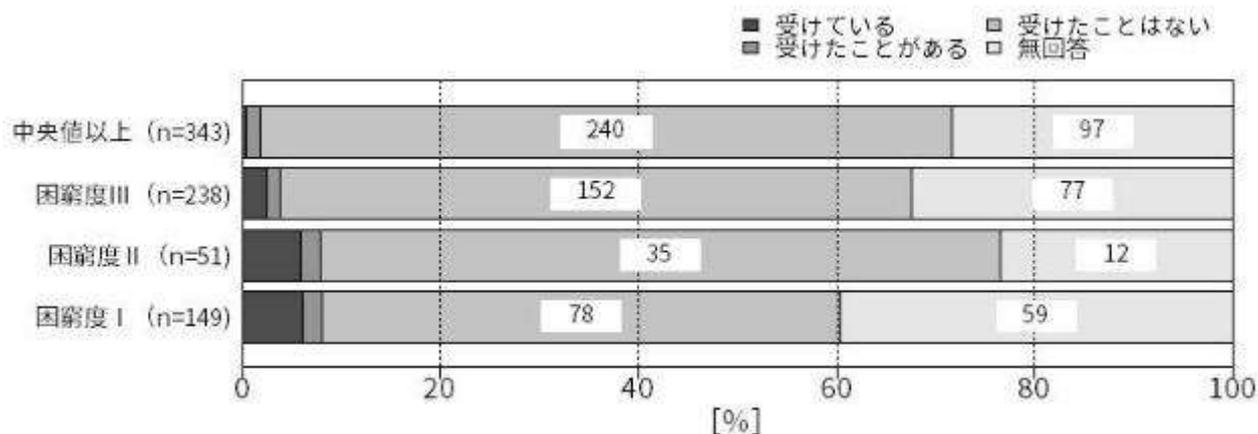


図 152. 困窮度別に見た、養育費

困窮度別に養育費の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は6%であった。

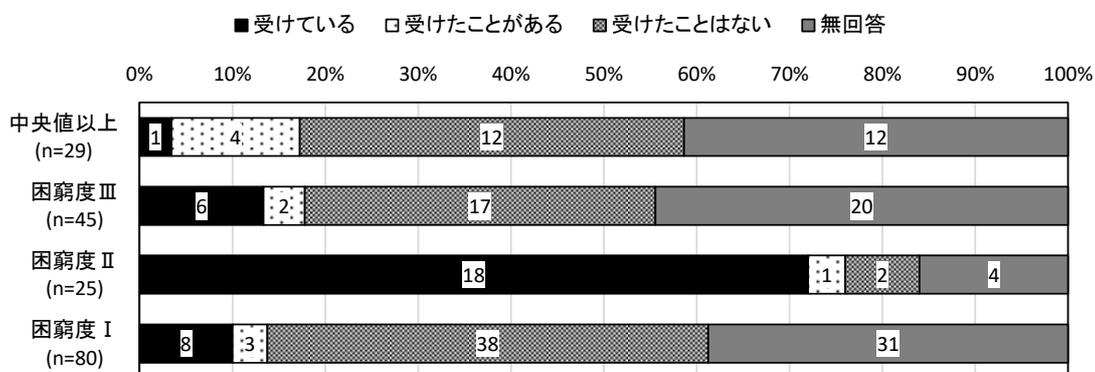
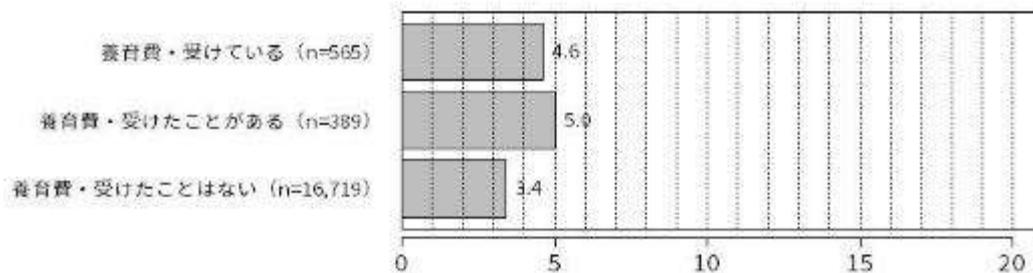


図 152 の補足図. 困窮度別に見た、養育費（ひとり親）

養育費の受給別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票 問30(3)⑨ × 保護者票 問7)

<大阪市24区>



<大阪市港区>

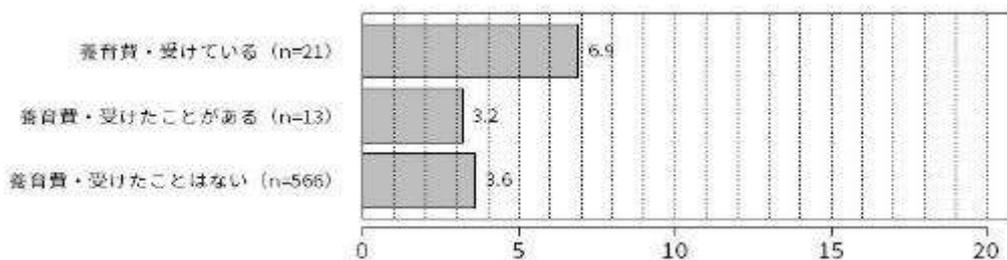
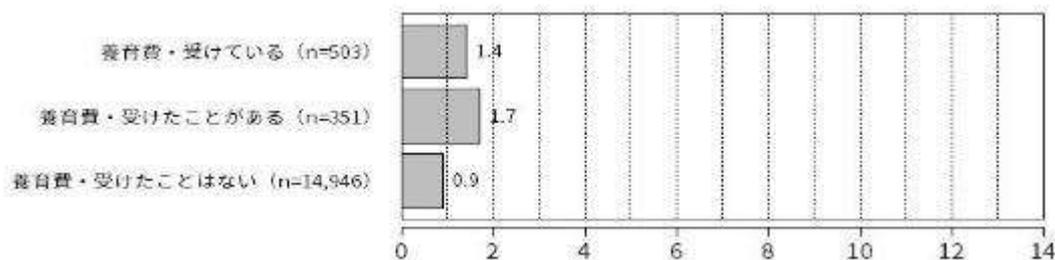


図 153. 養育費の受給別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。  
 養育費を受けている世帯では、経済的な理由による経験の該当数平均は 6.9 個であった。

養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票 問30(3)⑨ × 保護者票 問13)

<大阪市24区>



<大阪市港区>

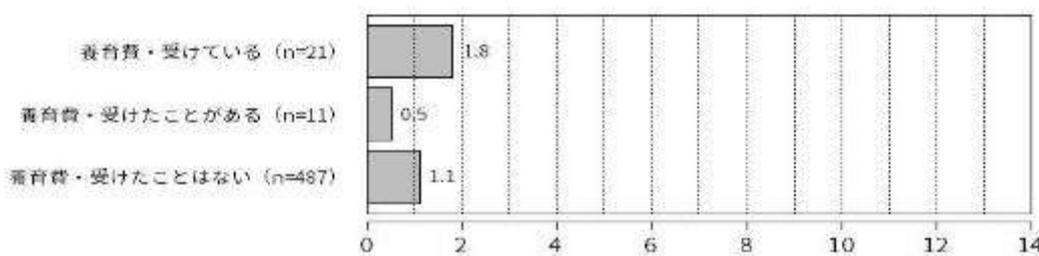
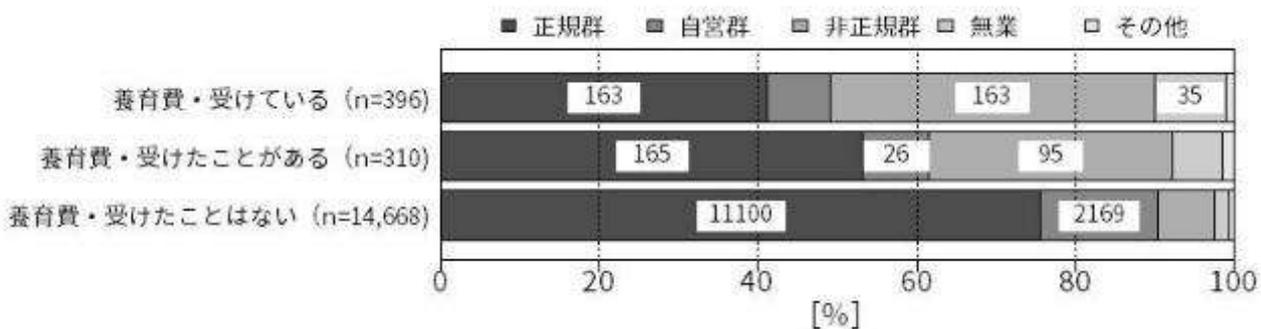


図 154. 養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。  
 養育費を受けている世帯では、経済的な理由による経験の該当数平均は 1.8 個であった。

養育費の受給別に見た、就労状況（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

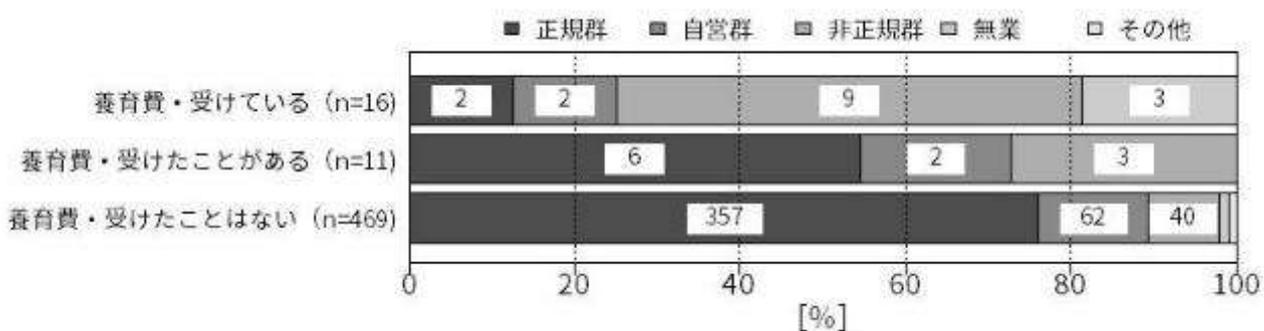


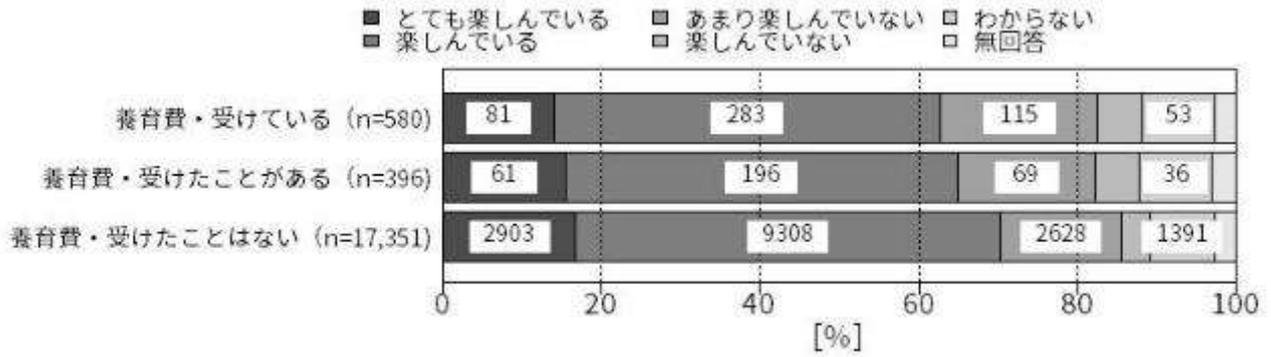
図 155. 養育費の受給別に見た、就労状況

養育費を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。  
 養育費を受けている世帯では、「非正規群」が 56.3%、「無業」が 18.8%、養育費を受けたことがない世帯では 8.5%、1.3%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

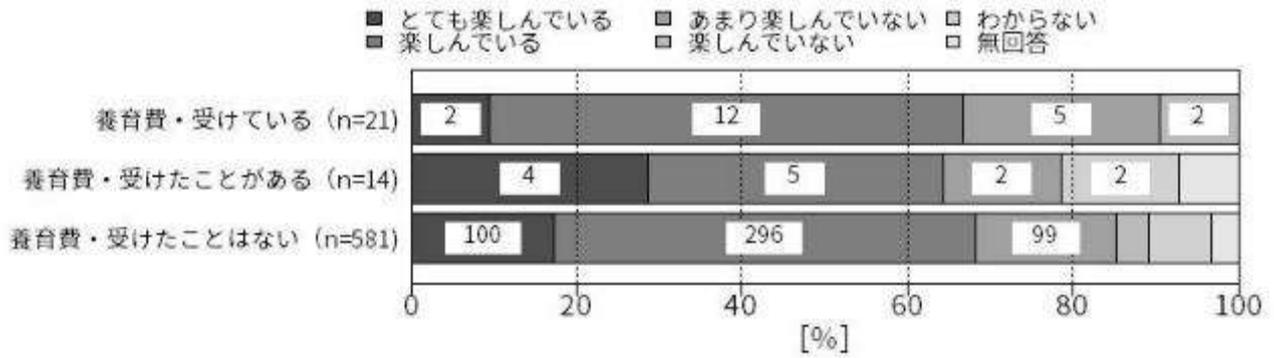


図 156. 養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

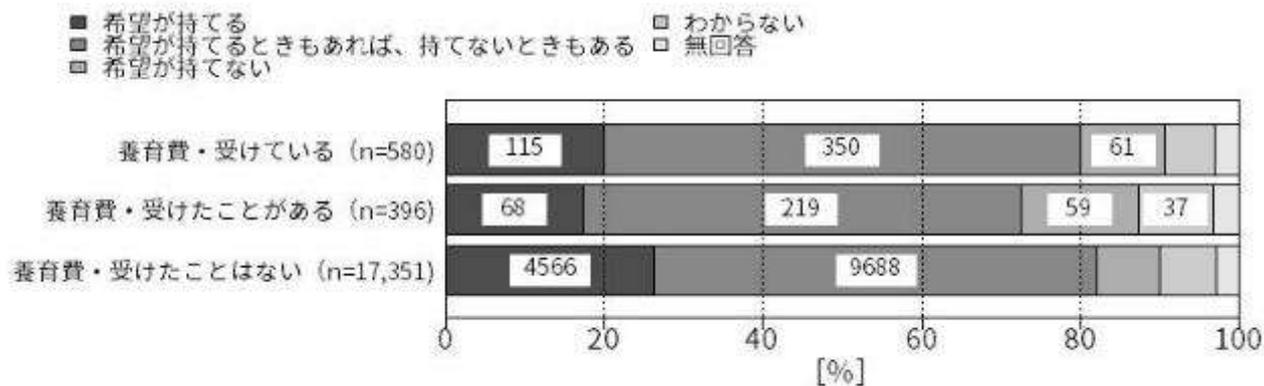
養育費を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

養育費を受けている世帯では、「とても楽しんでいる」が 9.5%、養育費を受けたことはない世帯では 17.2%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

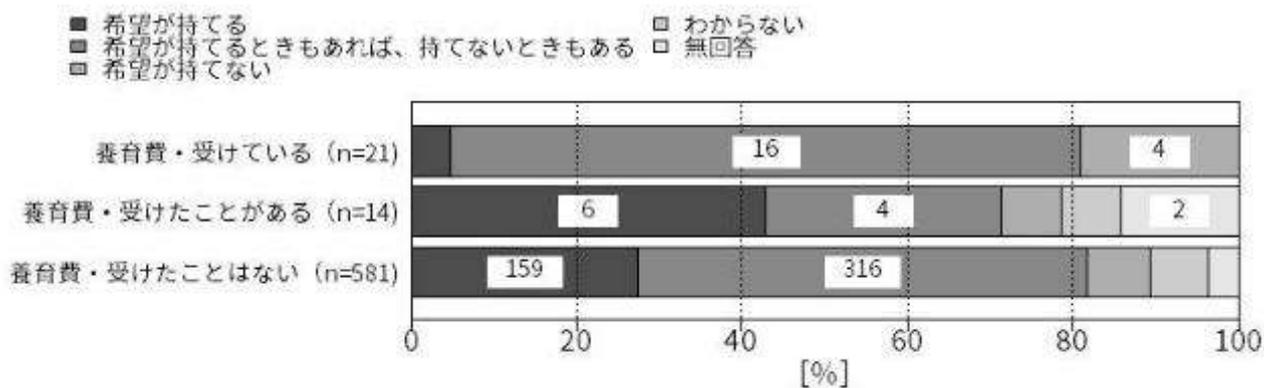


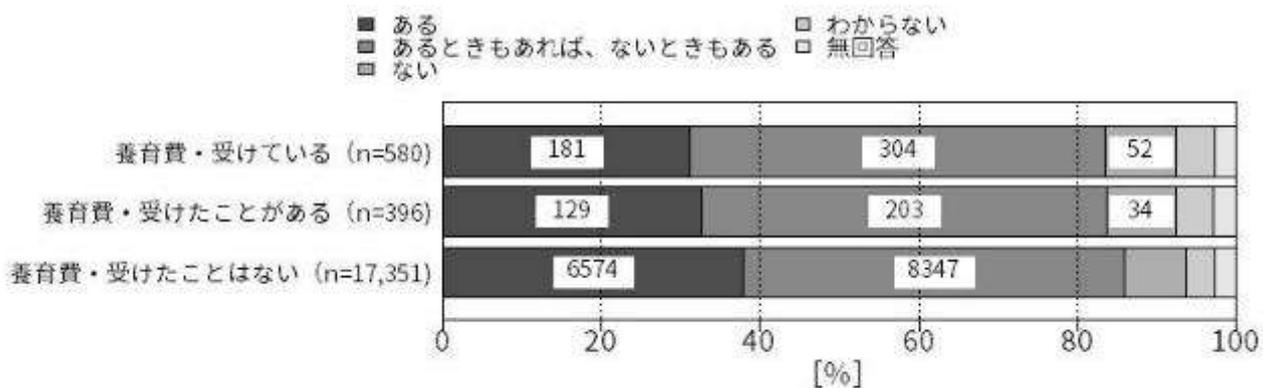
図 157. 養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

養育費を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「希望が持てる」が4.8%、養育費を受けたことはない世帯では27.4%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

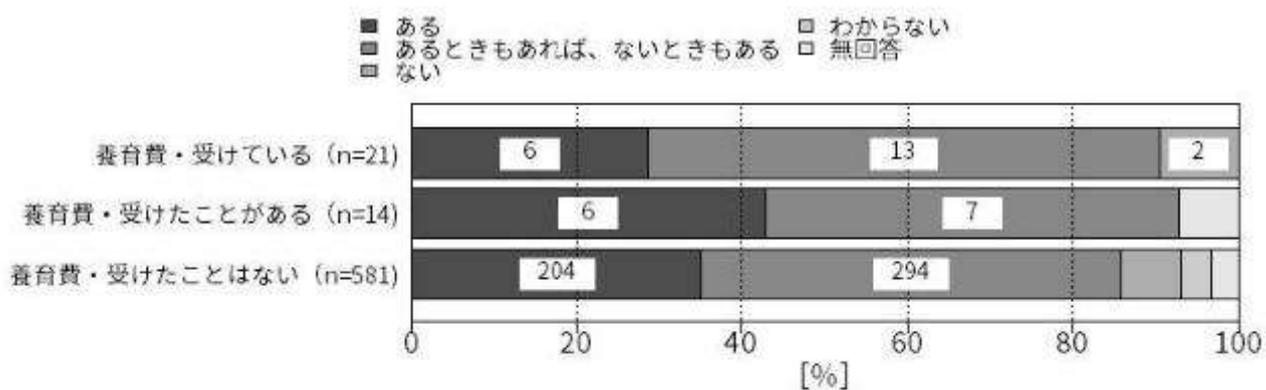


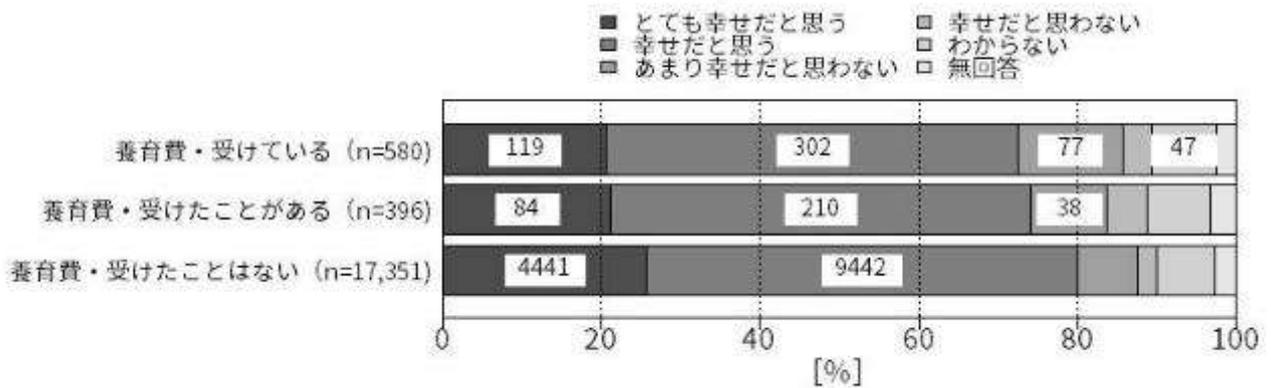
図 158. 養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

養育費を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯と養育費を受けたことはない世帯とで、大きな差は見られなかった。

養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

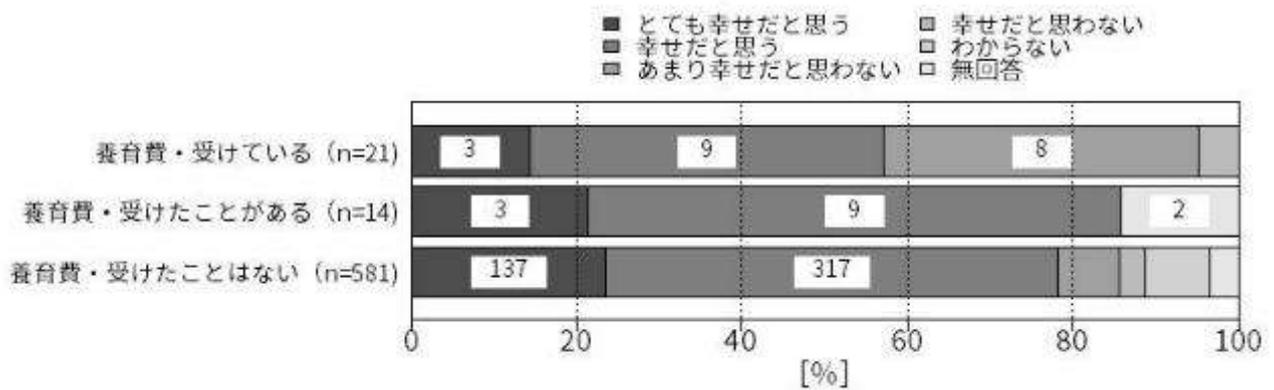


図 159. 養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

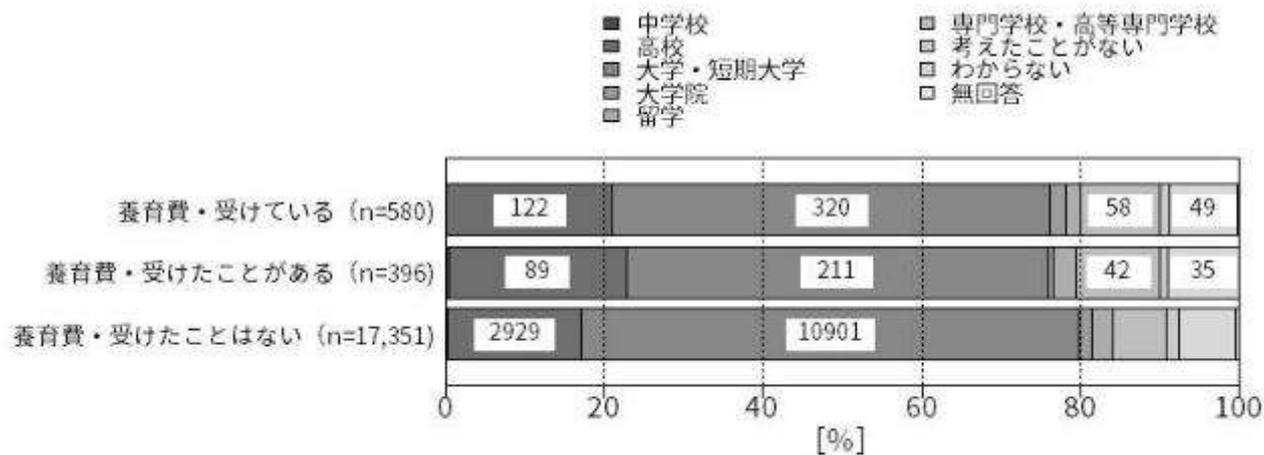
養育費を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

養育費を受けている世帯では、「とても幸せだと思う」が 14.3%、養育費を受けたことはない世帯では 23.6%であった。

養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

(保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 15)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

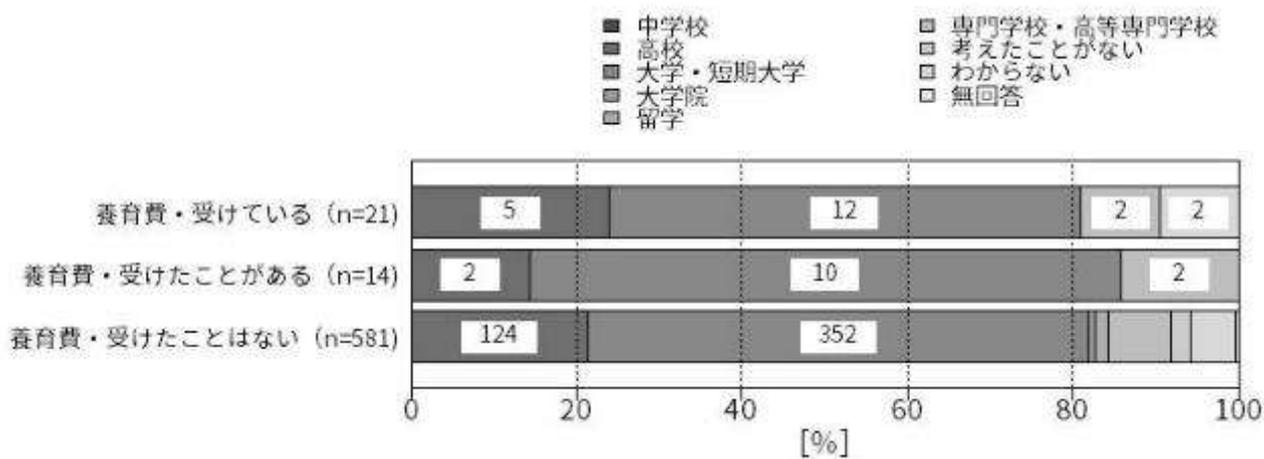


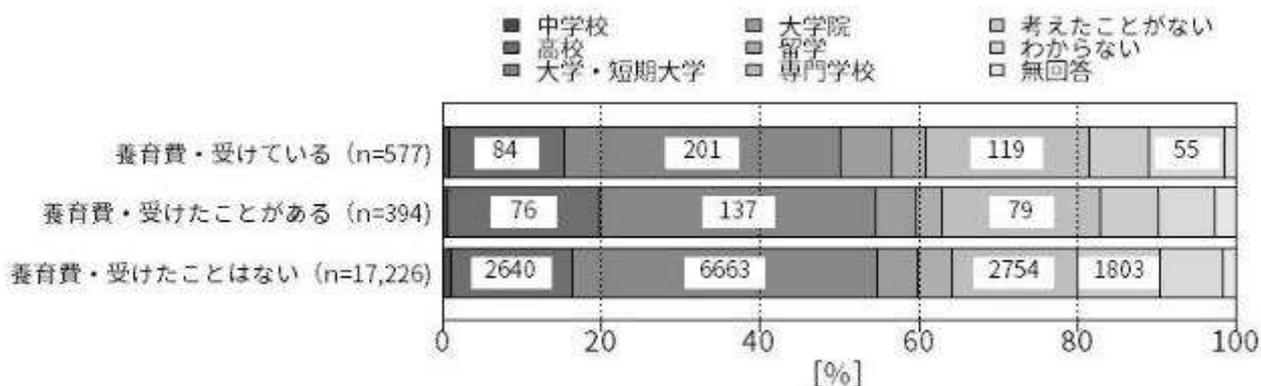
図 160. 養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

養育費を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 57.1%、養育費を受けたことはない世帯では 60.6%であった。

養育費の受給別に見た、希望する進学先（保護者票 問 30(3)⑨ × 子ども票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

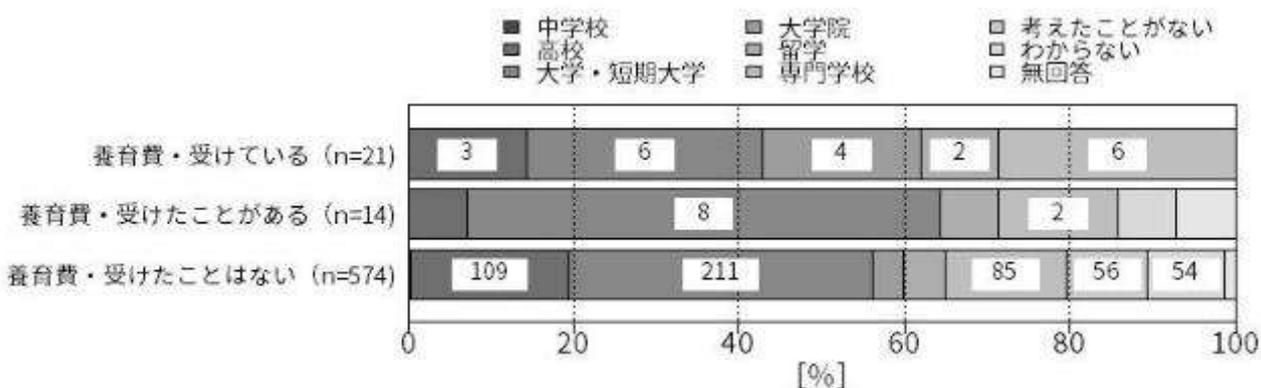
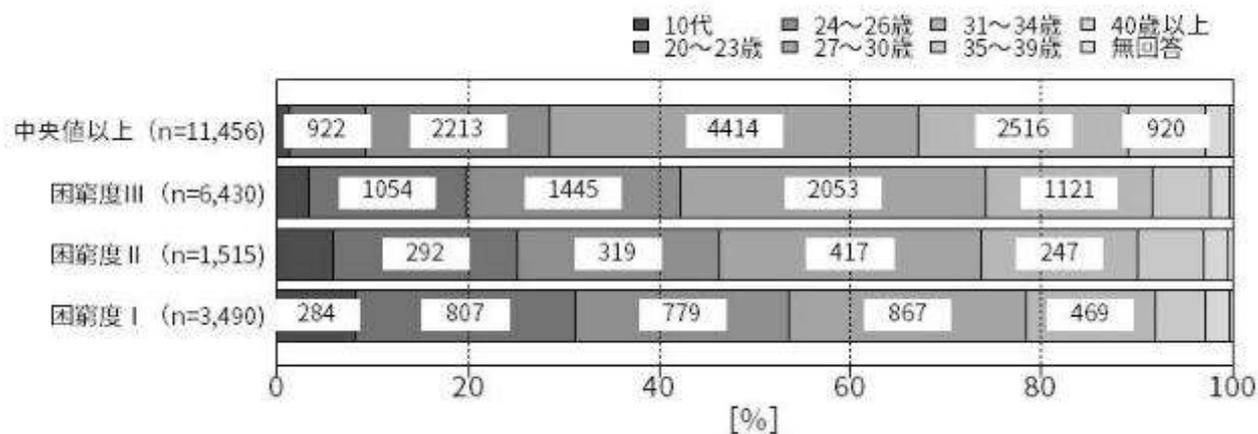


図 161. 養育費の受給別に見た、希望する進学先

養育費を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。  
 養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が28.6%、養育費を受けたことはない世帯では36.8%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票 問 22）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

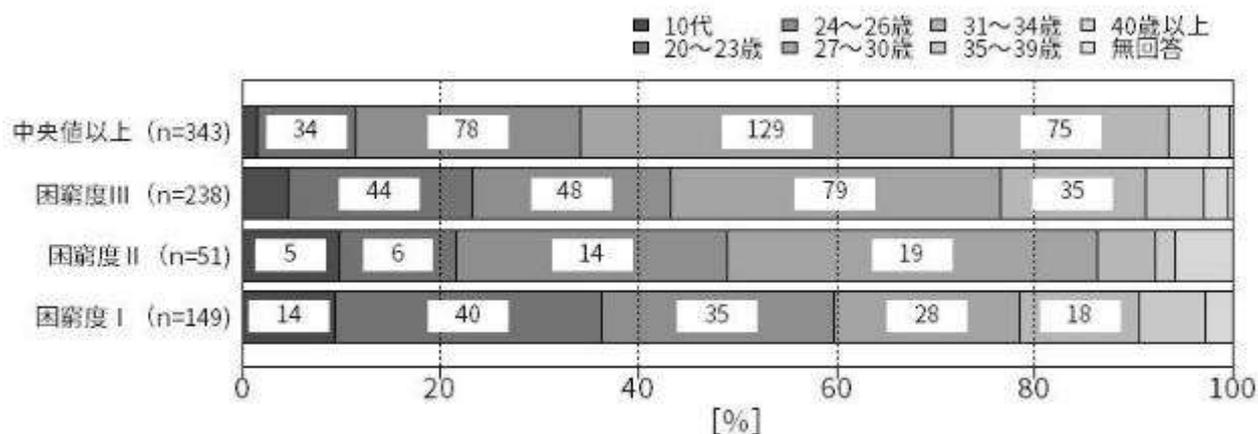


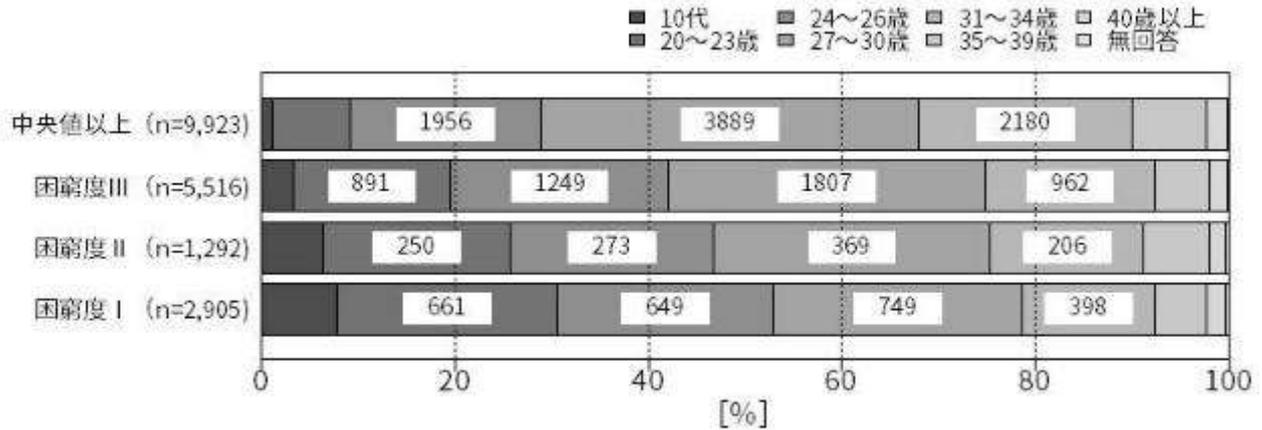
図 162. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度Ⅰ群で10代で初めて親となったと答えた割合は9.4%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票 問 22）

※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

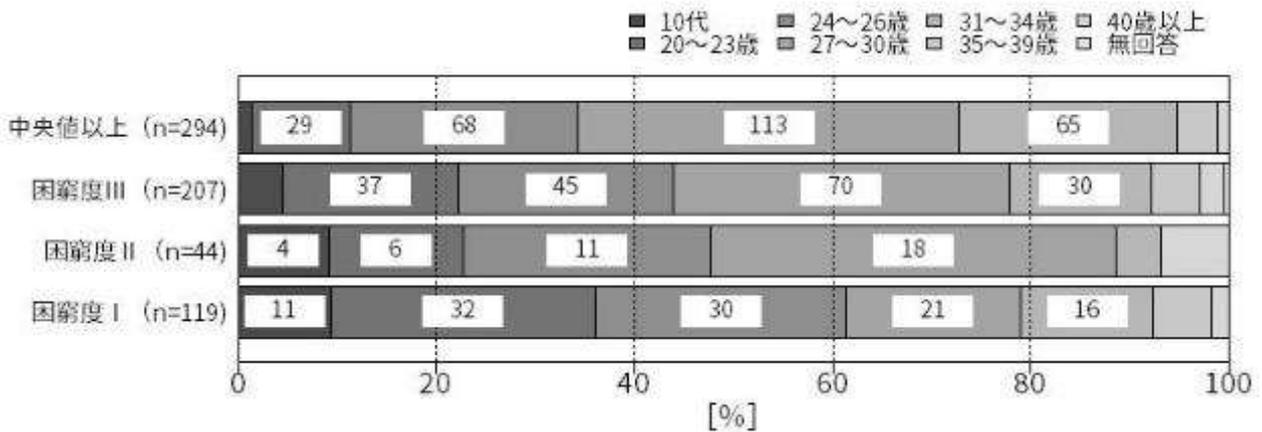


図 163. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

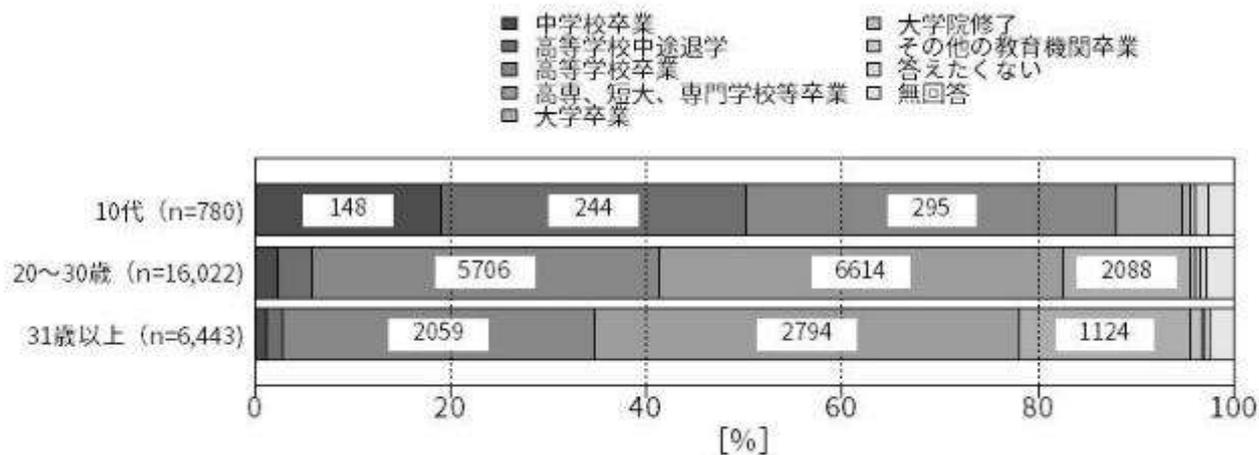
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度Ⅰ群で10代で初めて親となったと答えた割合は9.2%であった。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴（保護者票 問 22 × 保護者票 問 8）

※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

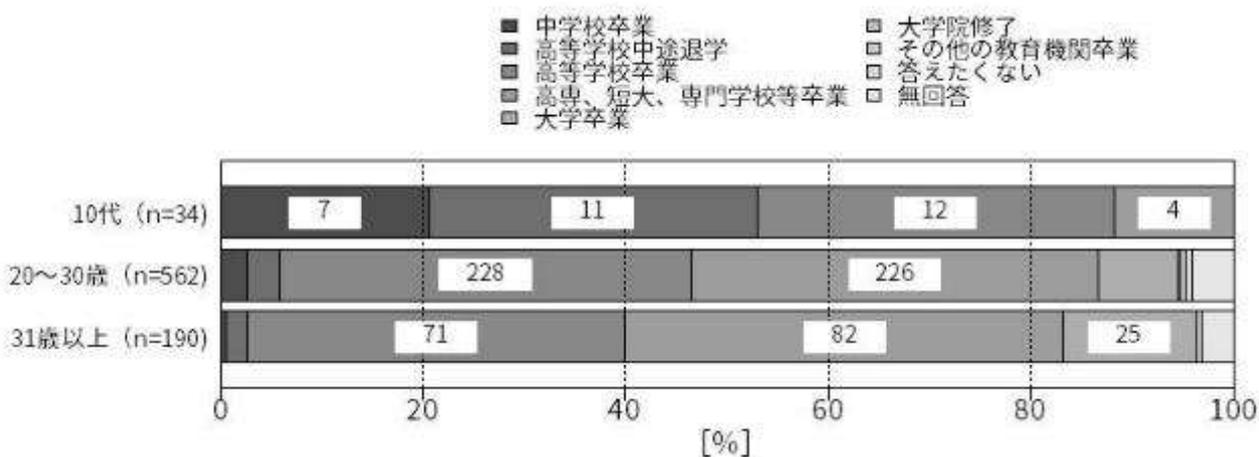


図 164. 初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴

※母親が回答者の場合に限定

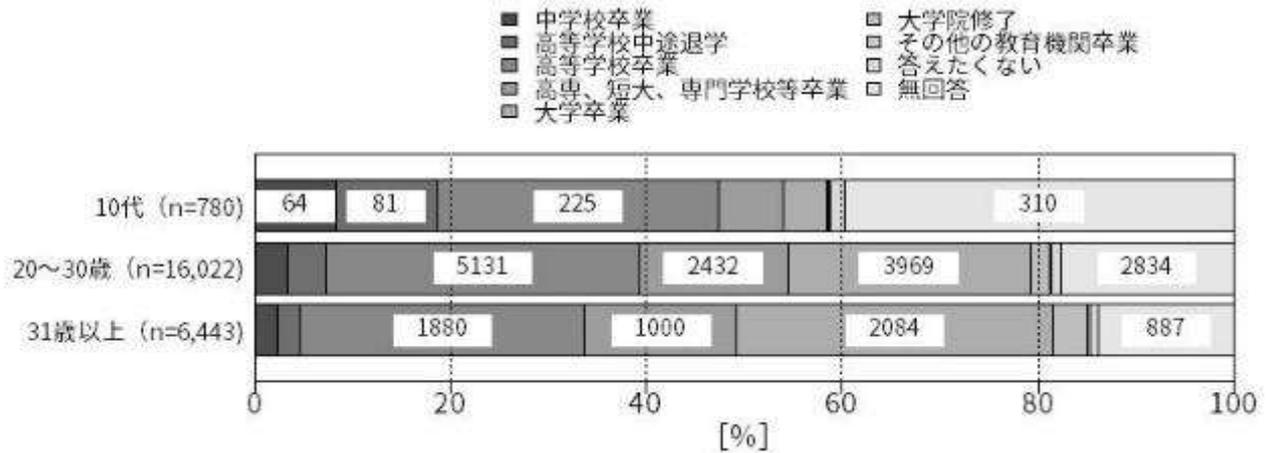
「初めて親となった年齢」を基準に、10代で初めて親となった10代群、平均出産年齢以下の年齢ではじめて親となった平均以下群（20～30歳）、平均出産年齢以上の年齢ではじめて親となった平均以上群（31歳以上）を設けた（平均出産年齢については下記 URL を参照）。

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に母親自身の最終学歴を見ると、10代群において「中学校卒業」と答えた割合は20.6%であり、「高等学校中途退学」と回答した割合は32.4%であった。

平均出産年齢：

初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴（保護者票 問 22 × 保護者票 問 8）  
 ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

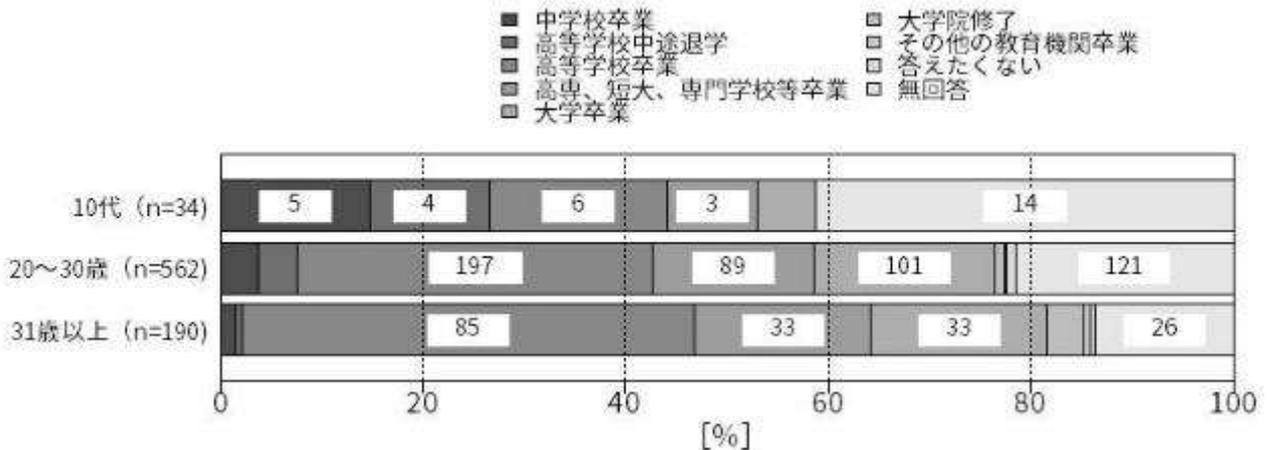
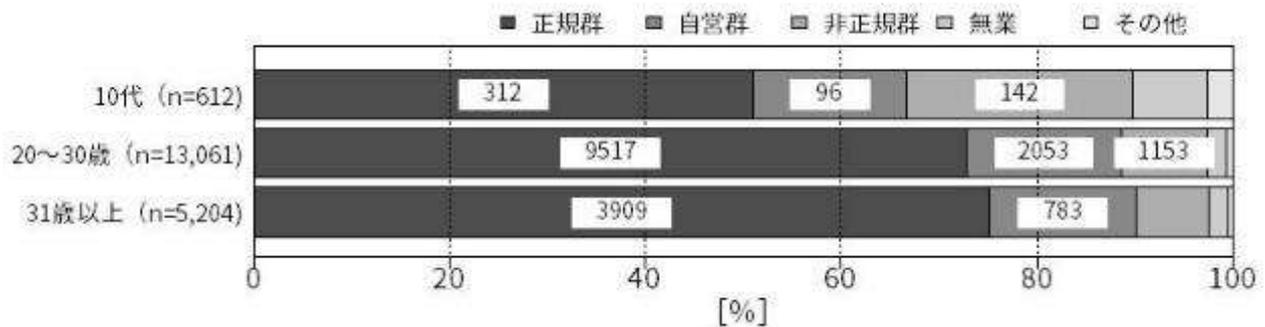


図 165. 初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴  
 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に父親の最終学歴を見ると、10代群において「中学校卒業」と答えた割合は14.7%であり、「高等学校中途退学」と回答した割合は11.8%であった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票 問 22 × 保護者票 就労状況）  
 ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

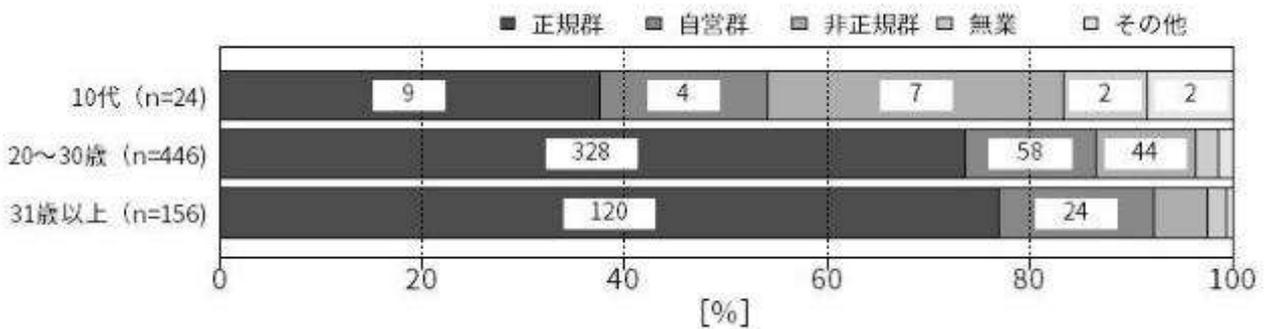
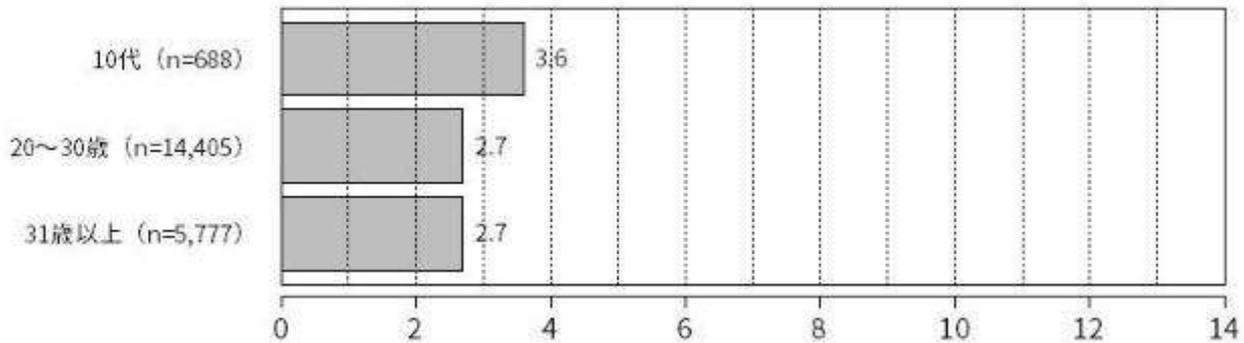


図 166. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況  
 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に就労状況を見ると、10代群は「正規群」が 37.5%、「非正規群」の割合が 29.2%であった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること  
(保護者票 問 22 × 保護者票 問 26) ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

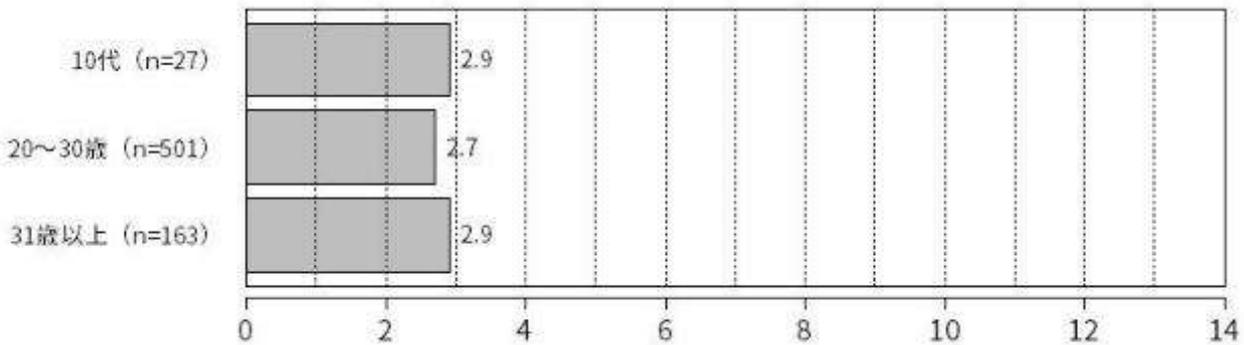
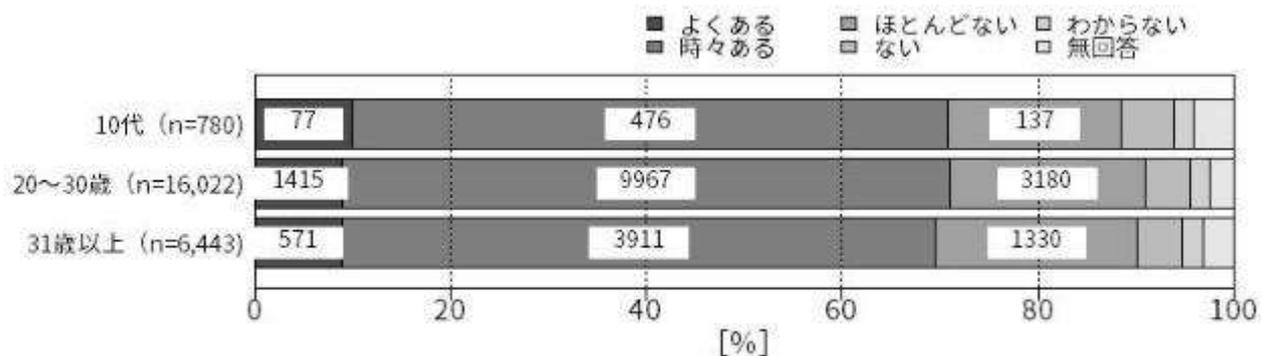


図 167. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること  
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代群は2.9個であった。

初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと  
 (保護者票 問 22 × 保護者票 問 27) ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

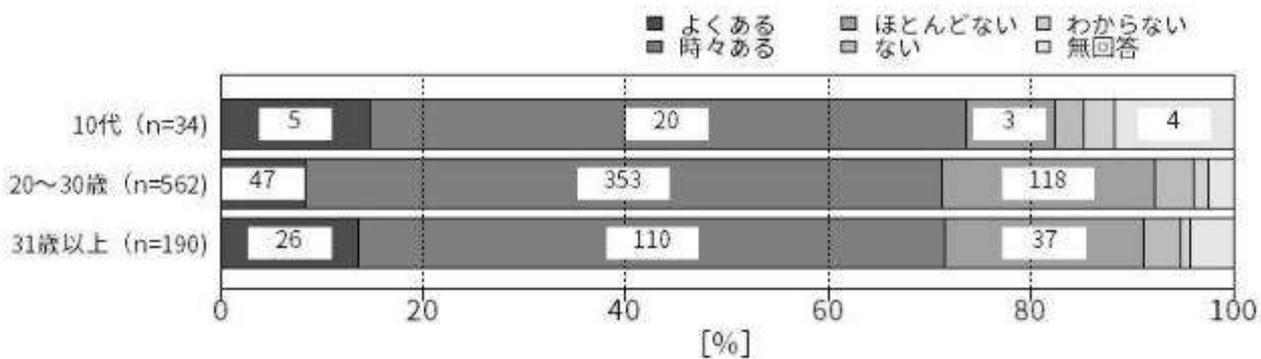
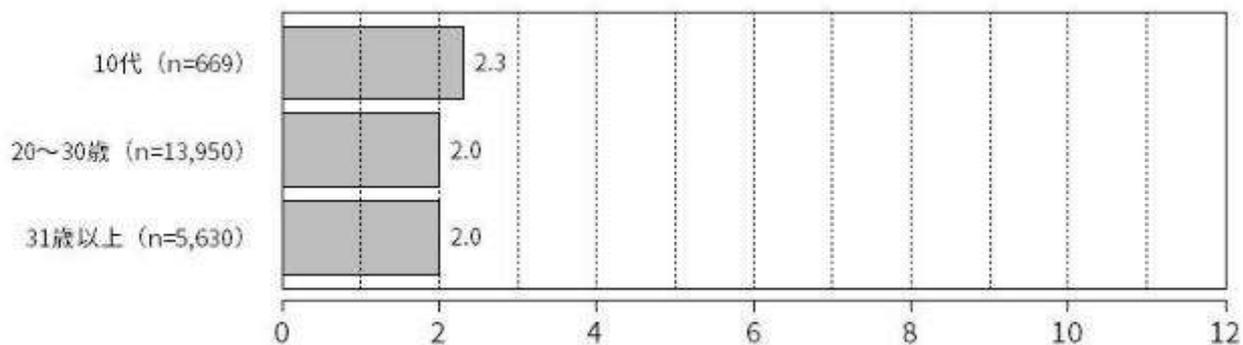


図 168. 初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと  
 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、10代群は、「よくある」と回答した割合は14.7%であった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること  
(保護者票 問 22 × 子ども票 問 24) ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

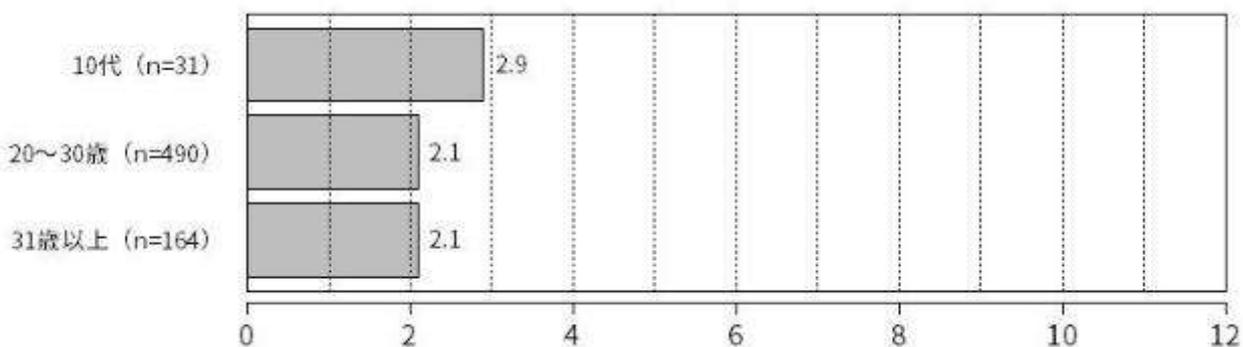
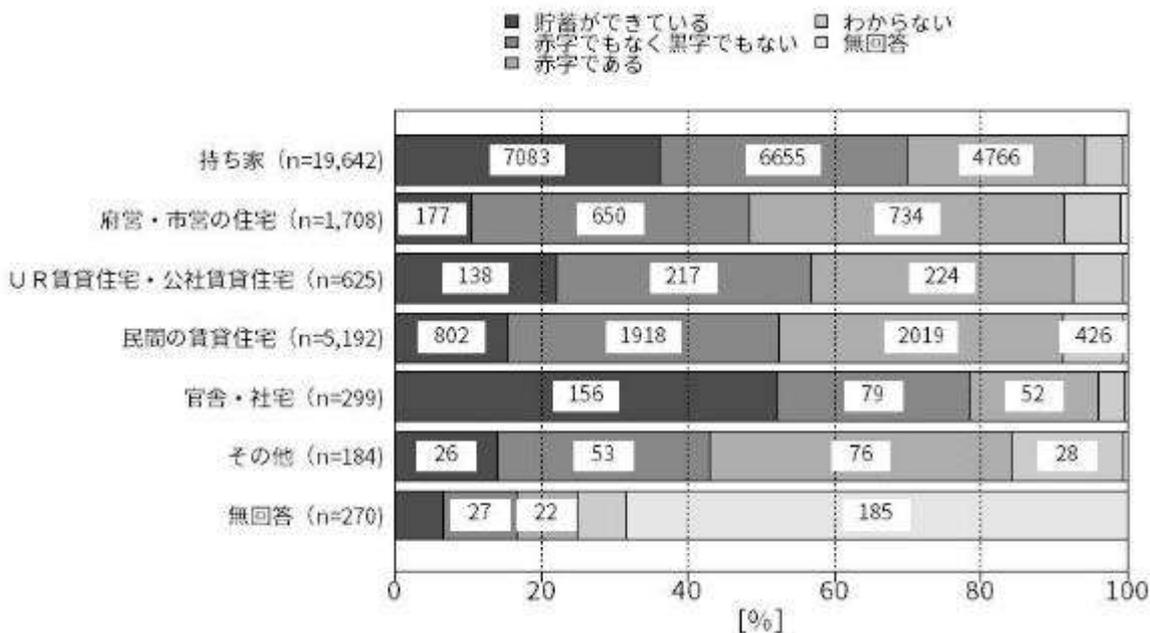


図 169. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること  
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に子どもが自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代群では2.9個であった。

住居別に見た、家計状況（保護者票 問4 × 保護者票 問6(1)）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

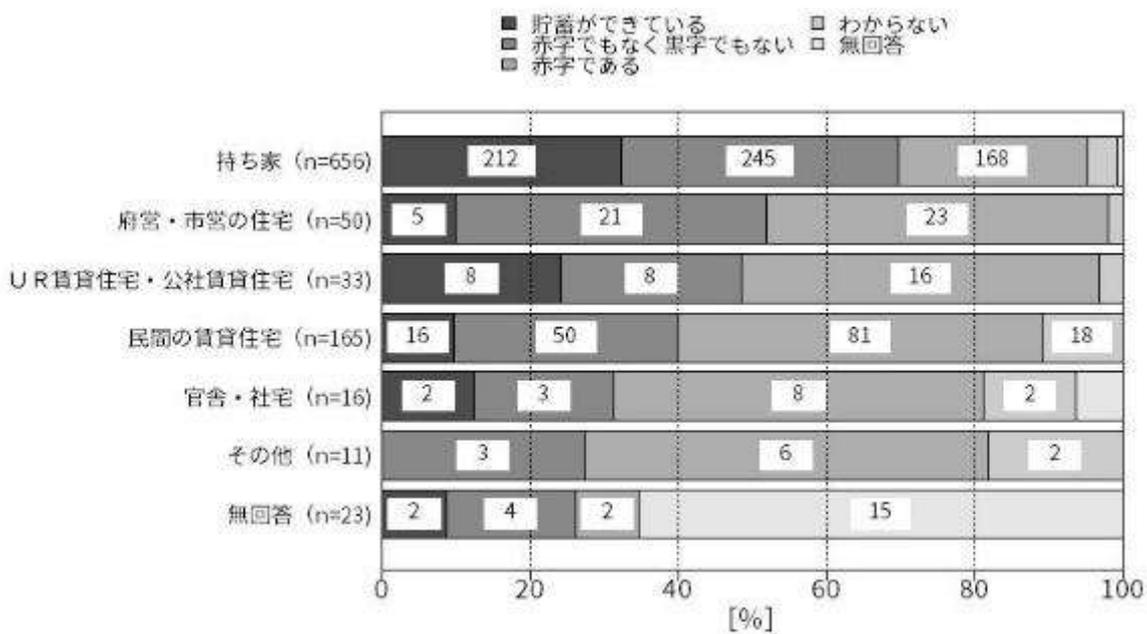
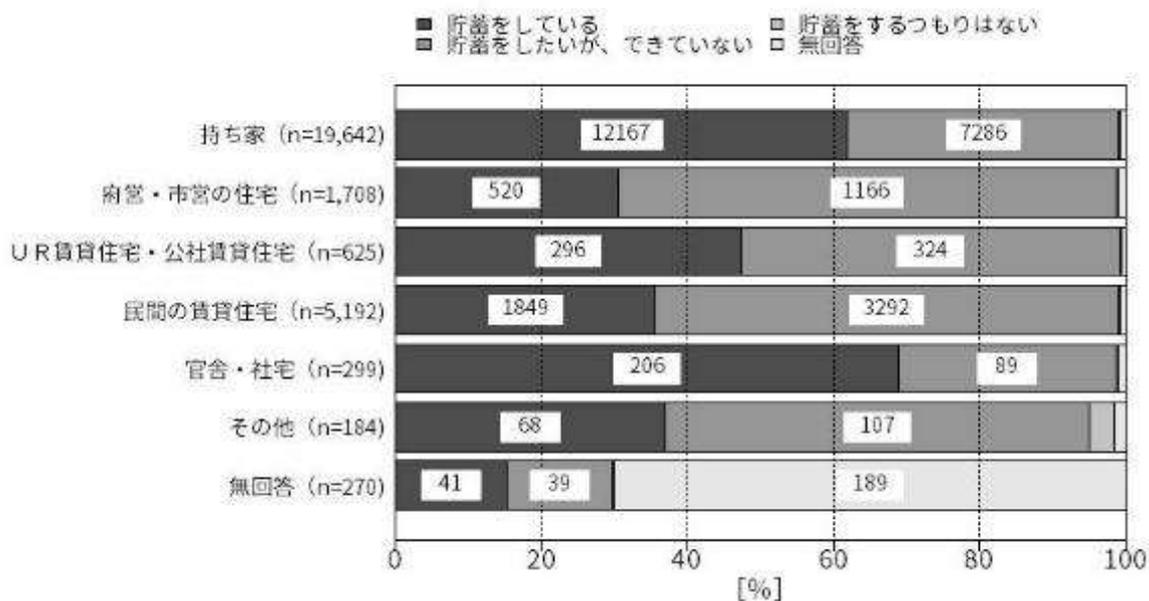


図 170. 住居別に見た、家計状況

「赤字である」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では46.0%、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では48.5%、民間の賃貸住宅に住む人では49.1%である。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は25.6%である。

住居別に見た、子どものための貯蓄（保護者票 問4 × 保護者票 問6(3)）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

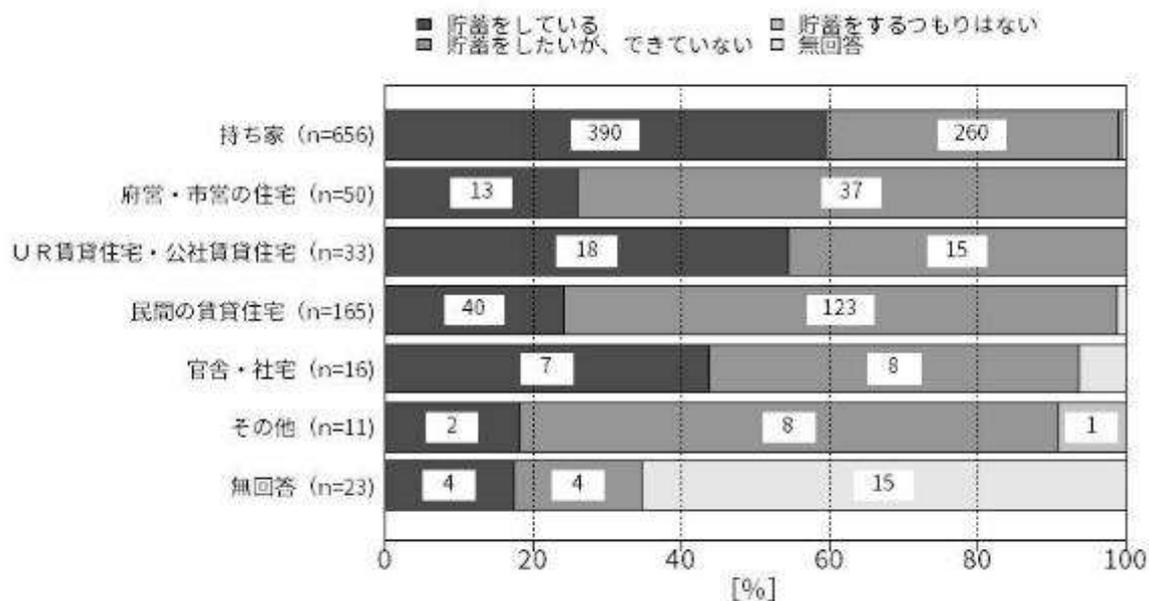


図 171. 住居別に見た、子どものための貯蓄

「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では 74.0%、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では 45.5%、民間の賃貸住宅に住む人では 74.5% であった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は 39.6% であった。

## <家庭状況に関する考察>

社会保障給付の利用状況について見ると、困窮度別に児童手当の受給率を見ると、困窮度Ⅰ～Ⅲ群において、とりわけ多くの世帯（92.6%～98%）が「受けている」に回答した。就学援助費の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、63.1%（大阪市64.4%）が受けていると回答した。ひとり親世帯対象の児童扶養手当の利用状況については、困窮度Ⅰ群では73.7%（大阪市76.2%）、生活保護の受給率では、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は6.0%（大阪市9.6%）にとどまった。

生活保護を受けている世帯について、受けていない世帯と比較すると次の回答が高い傾向にあった。生活を「楽しんでいない」、将来に対して「希望が持てない」、ストレスを発散できるものが「ない」、「あまり幸せだと思わない」、「相談できる相手がいない」、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「ほとんどない」、おうちの大人の人に朝起こされることが「ほとんど毎日」、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりすることが「まったくない」、おうちの大人の人と文化活動をするのが「まったくない」、授業時間以外に勉強を「まったくしない」、「学習塾等、習い事はしていない」学校の勉強が「あまりわからない」などの回答が高い傾向にあった。

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均点は、生活保護世帯では17.7点（大阪市17.7点）に対し、生活保護を受けたことがない世帯では18.6点（大阪市18.5点）であった。

生活保護世帯では、子どもに希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した保護者が34.8%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では61.2%であった。希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した子どもは生活保護世帯が26.1%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では37.3%であった。

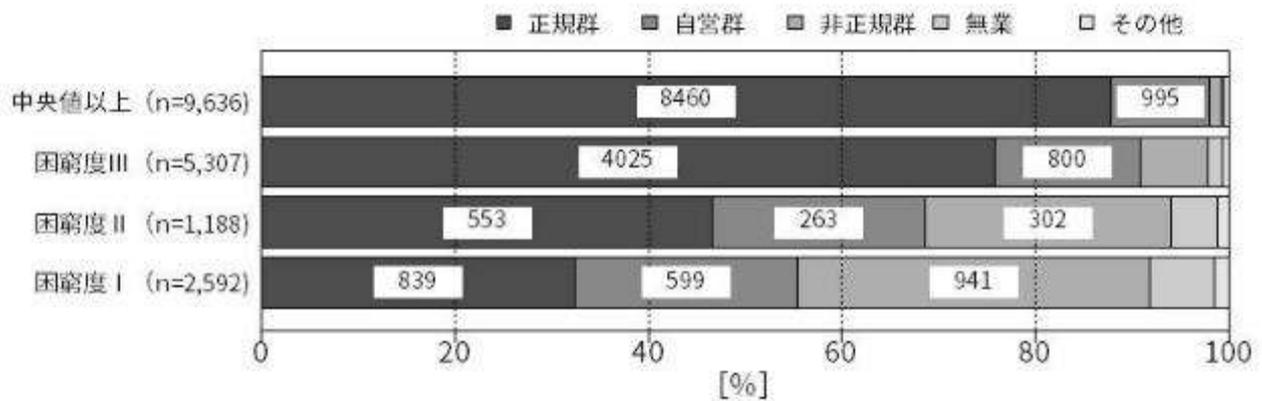
母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、10代で初めて親となったと答えた割合が高くなっている。学歴を見ると10代群において「中学校卒業」または「高等学校中途退学」と回答した割合が高かった。就労状況を見ると、10代群は他の群と比較して「正規群」の割合が低く、「非正規群」の割合が高かった。

家計について「赤字である」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅（46.0%）、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅（48.5%）、民間の賃貸住宅（49.1%）が高かった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は25.6%であった。子供の将来のために「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では74.0%、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では45.5%、民間の賃貸住宅に住む人では74.5%であった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は39.6%であった。

### 3-2. 雇用

#### 困窮度別に見た、就労状況（保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

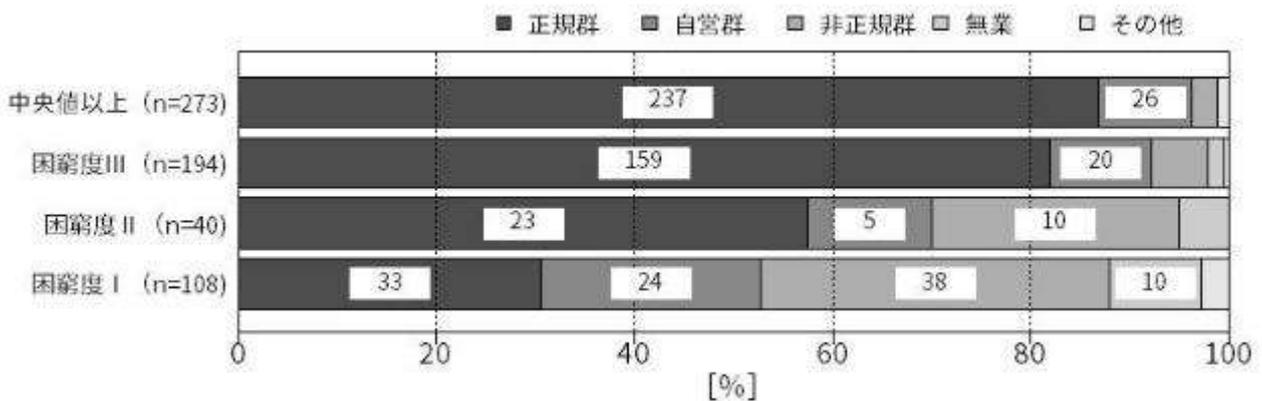


図 172. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」・「非正規群」の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では「正規群」の割合が30.6%、「非正規群」の割合が35.2%となっている。

※就労形態は以下のように分類している。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、

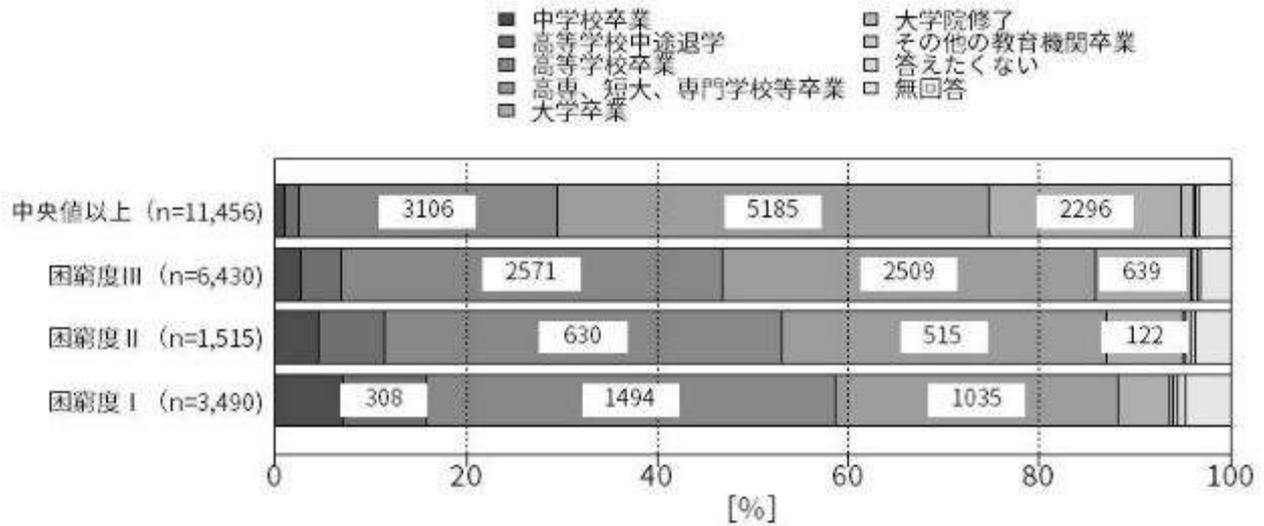
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、

上記以外で、誰も働いていなければ（問9選択肢6、7）無業。

上記以外がその他 となる。

困窮度別に見た、母親の最終学歴（保護者票 問8）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

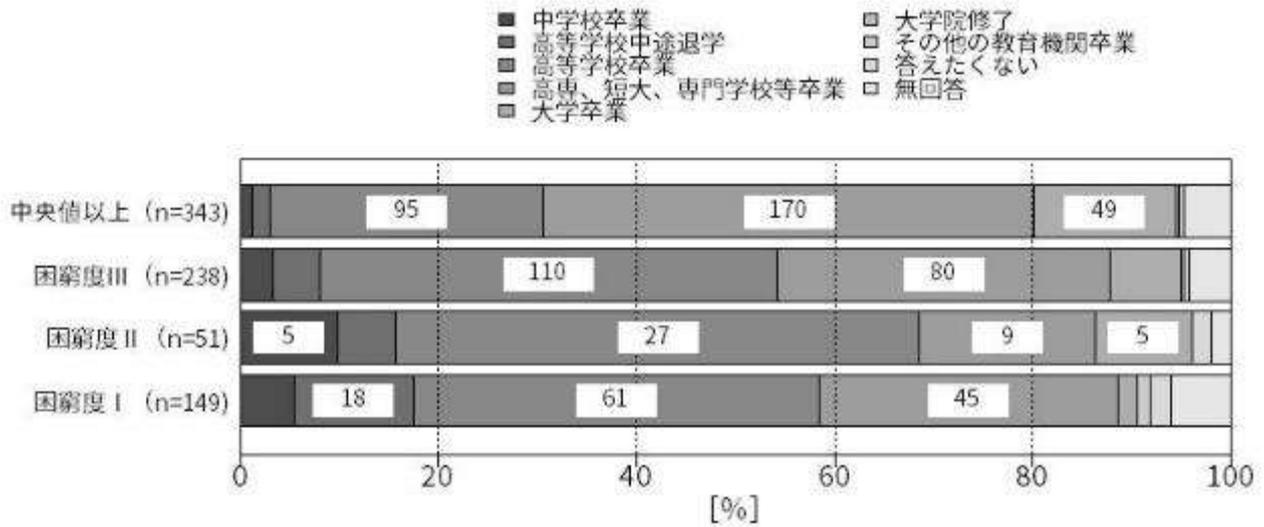
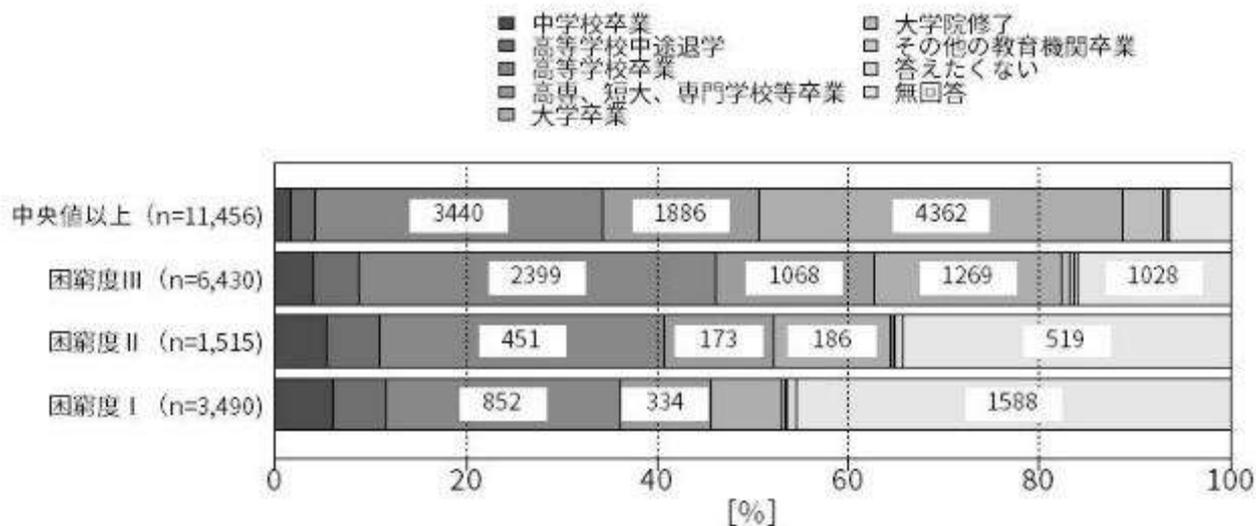


図 173. 困窮度別に見た、母親の最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度Ⅰ群の「中学校卒業」は5.4%、「高等学校中途退学」は12.1%、「高等学校卒業」の割合が40.9%であった。

困窮度別に見た、父親の最終学歴（保護者票 問8）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

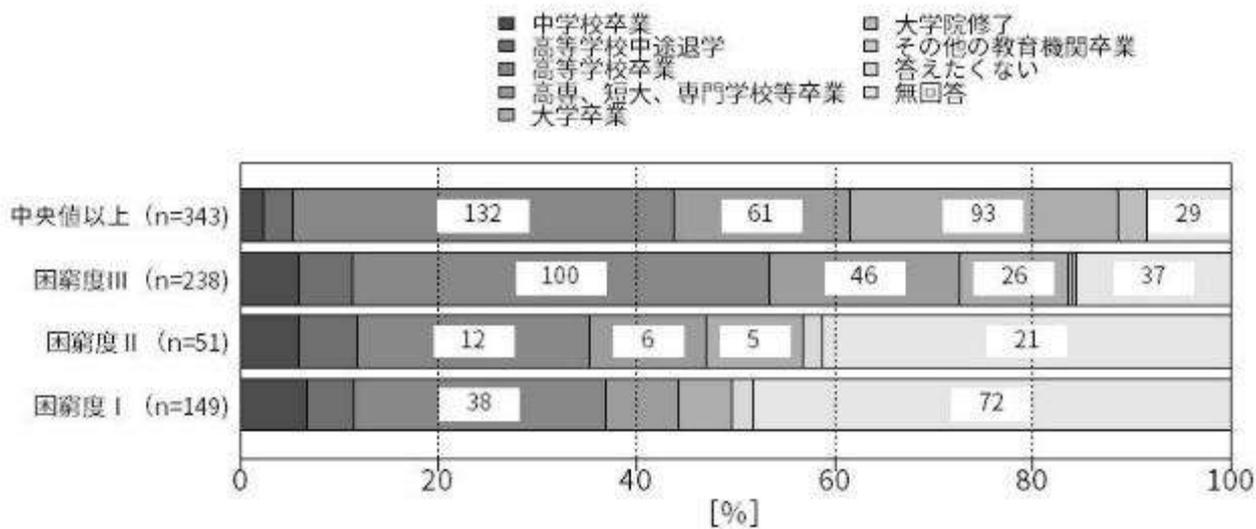
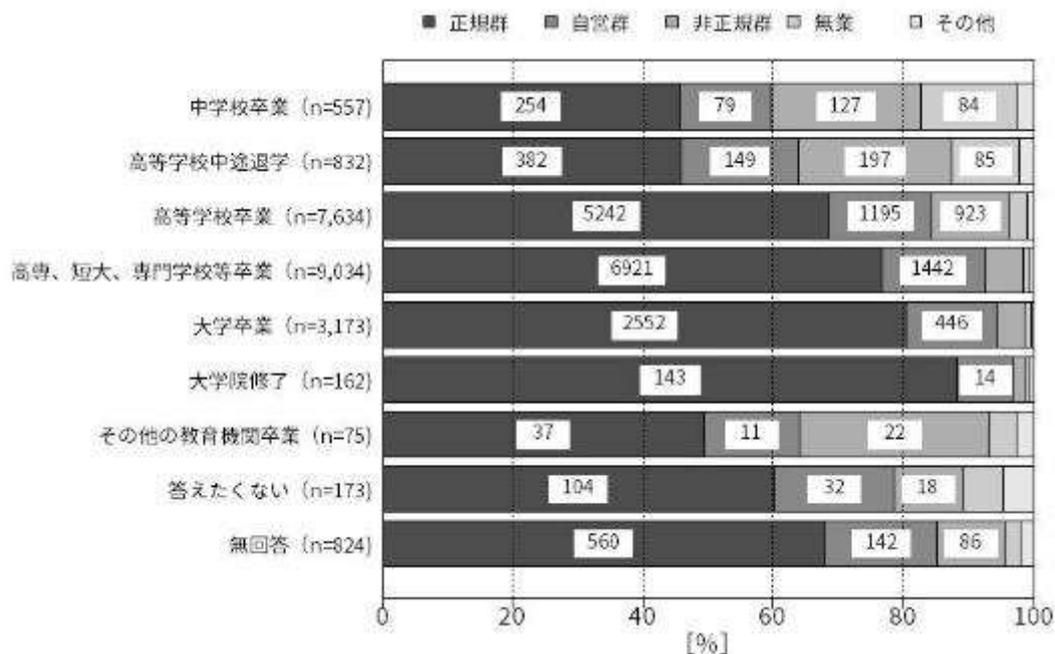


図 174. 困窮度別に見た、父親の最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、中央値以上群とそれ以外とで、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合に差が見られる。困窮度Ⅰ群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ 6.7%、4.7%であった。また、困窮度Ⅰ群では無回答の割合も高い (48.3%)。

母親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票 問8 × 保護者票 就労状況）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

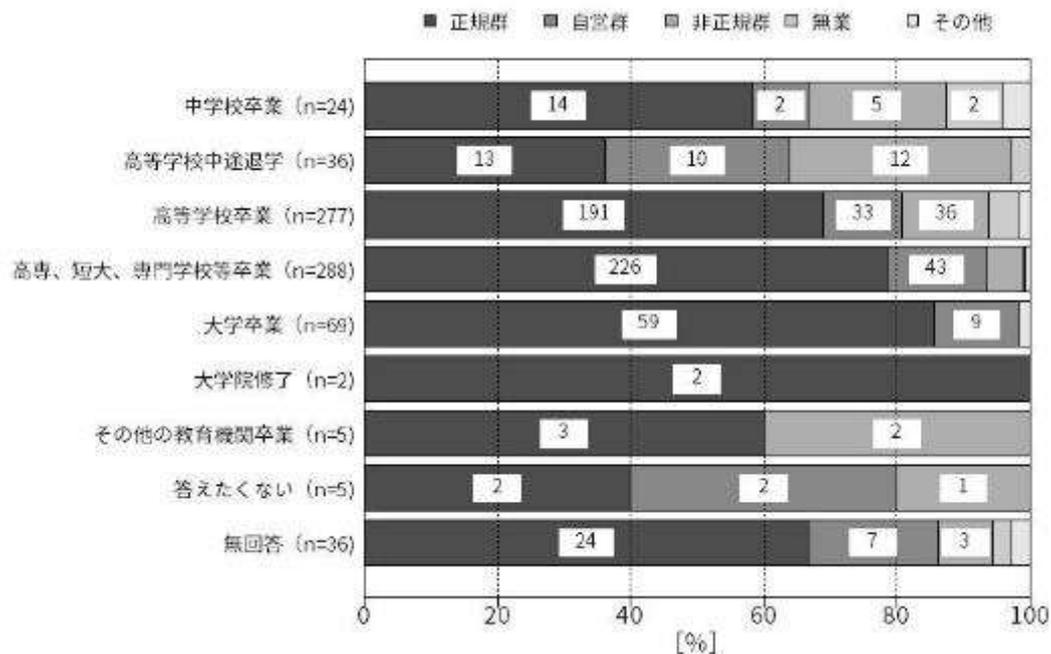
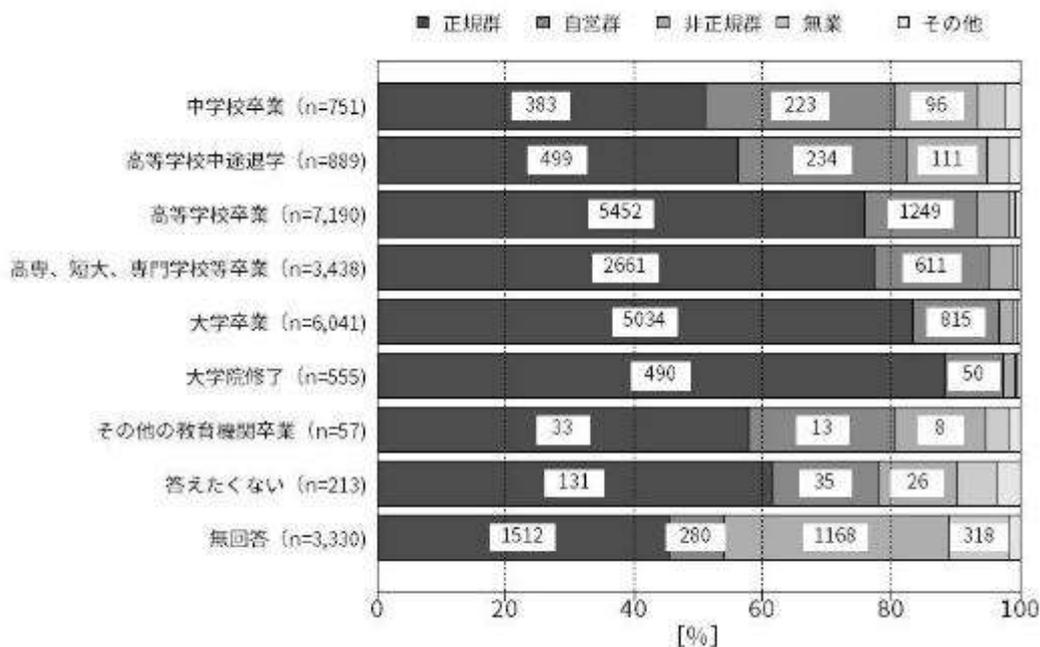


図 175. 母親の最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

父親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票 問8 × 保護者票 就労状況）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

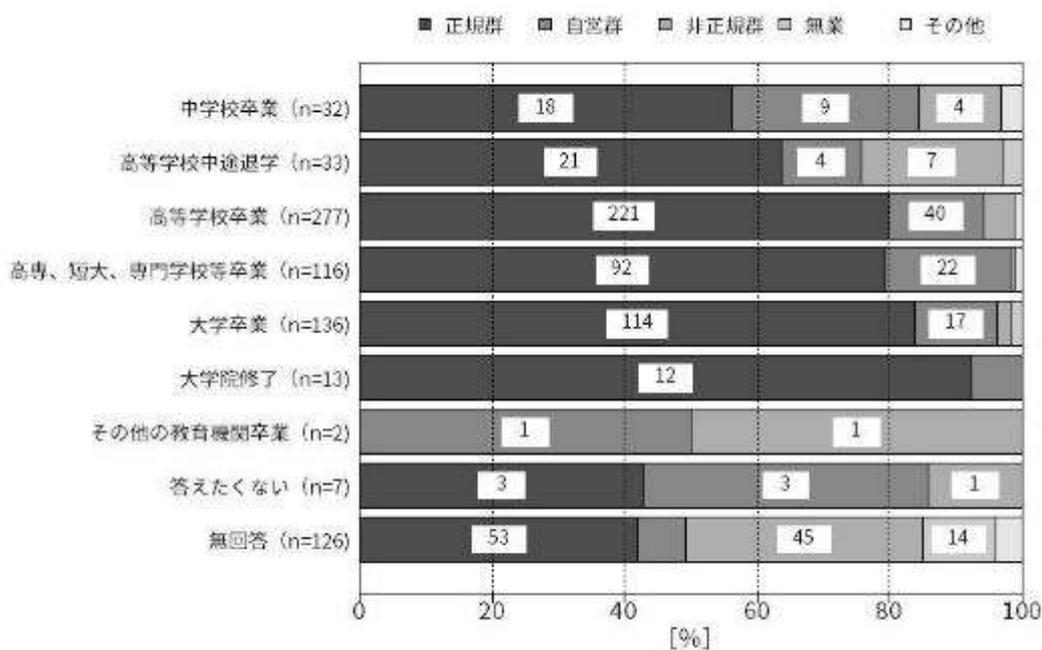
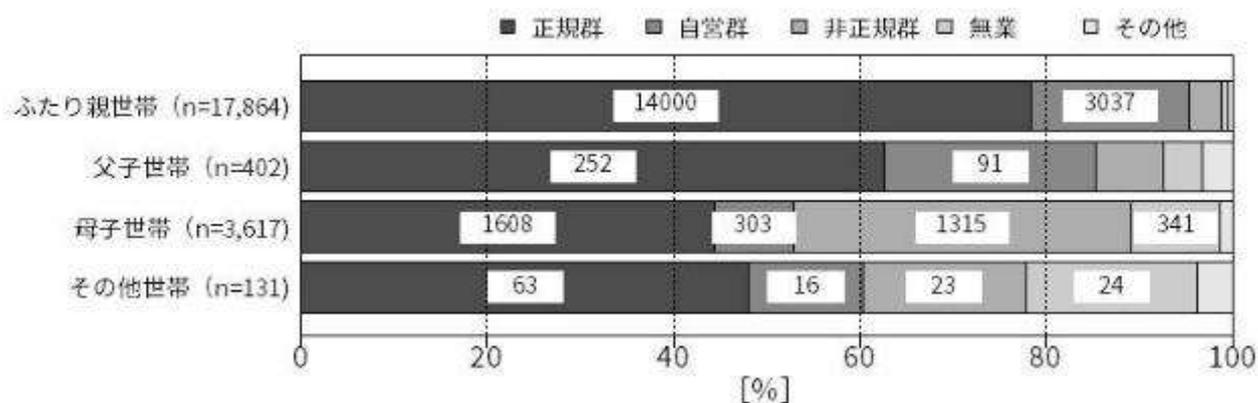


図 176. 父親の最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「父親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

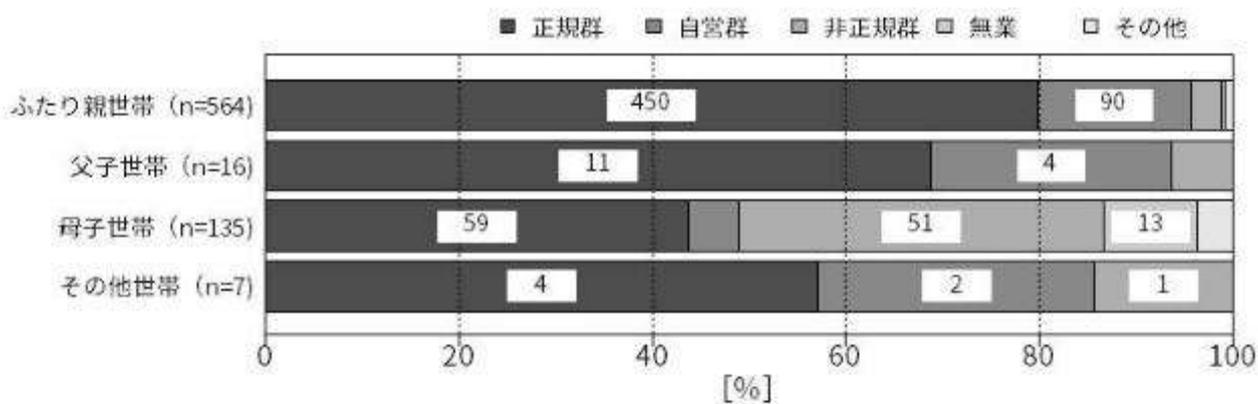


図 177. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が79.8%であったが、「父子世帯」では68.8%、「母子世帯」では43.7%であった。「非正規群」は、「父子世帯」では6.3%、「母子世帯」では37.8%となっている。